CLF REPORT

同志社大学
学習支援・教育開発センター レポート

Center for Learning support and Faculty development report

2018.3
vol.28

CONTENTS

01 P2-P5
ラーネッド記念図書館
ラーニング・コモンズ特集
FD支援部会活動報告
開催報告
● 教育方法・教材開発成果報告会

02 P6-P7
ラーニング・コモンズ運営状況
● エリア別利用状況
● 協同学習ワークショップ開催報告
● 学習相談
● コモンズカフェ

03 P8-P10
各学部・研究科・センターFD活動報告
学外FD企画参加記
2018年度 教育方法・教材開発費 採択テーマ
FD関連企画のご案内

04 P11-P12
2017年度「大学入学準備講座」開催報告
センター事務室からのお知らせ
BOOKS新着図書情報
Column 大学教育の今

ラーネッド記念図書館ラーニング・コモンズ特集

2018年４月より、ラーネッド記念図書館の１階に新たにラーニング・コモンズが開室します。情報を知識に、知識を創造に変えていく「新しい学びの広場」として、学生一人ひとりが、さまざまなヒト・モノ・コト・情報と出会い（学びのインプット）、それらを仲間と一緒に議論し展開していく（学びのアウトプット）ことで、新しい学びの可能性を生み出していきます。学生の授業時間外学習を促すだけではなく、学生一人ひとりの中に眠っている発想力や、構想力、実現力が、ここ「ラーネッド記念図書館ラーニング・コモンズ」で目覚めることを期待しています。

学生の学びをサポートする各エリアの詳細は以下をご覧ください。

プレゼンテーションコート

机を撤去して全面を使用すれば70人規模の講演会を開催できるほか、ワイドスクリーンを使ってのプレゼン発表でも使用可能です。また、天井の専用レールにポスターなどを吊って、ポスターセッションの会場としても利用することができます。壁面には３面のスクリーンを設置しており、ラーニング・コモンズ内を映すだけではなく、テレビ会議システムを使って、良心館ラーニング・コモンズ等とも映像・音声を繋いでリアルタイムでイベントを開催することができます。何ができるのかではなく、何をしたいかによって、さまざまな使い方をすることができるエリアとなっています。

ワークショップルーム

ホワイトボード機能を持つ間仕切りで仕切られた２つの部屋で構成されています。間仕切りは取り外しも可能で、２つの部屋を連結して利用することもできます。ワークショップ等での利用のほか、自ら学んでいくための基本的なアカデミックスキルに関する講習会なども開催されます。

インフォダイナー

可動式ホワイトボードやディスプレイ（一部、電子黒板機能付き）が設置されたファミレス風のボックス席と昇降式のテーブル席を設置しています。アナログ的にホワイトボードに書き込みながら議論するもよし、パソコン上のコンテンツをディスプレイに映して、電子黒板を使って書き込みをしながら議論するもよし、使い方は利用者次第。仲間との議論を通して、アイデアはどんどん形になっていきます。

グループワークエリア

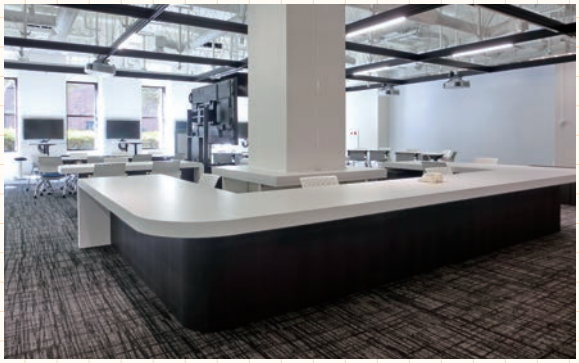
プロジェクターとスクリーンを使った小規模セミナーを開催できるほか、天井のフレームを使ってポスターセッションも開催できます。机の組み合わせ方によって、いろいろな形のグループワークを行うことができるので、グループ内でのブレーンストーミングや分担作業等にも利用できます。また、このエリアには畳型の台座が置かれており、自由にレイアウトを変更して堀コタツ式にしてみたり、生け花やお茶といった日本の文化を伝えるイベント等でも利用できます。

アカデミックサポートエリア

平日の10：00～18：00の間、アカデミック・インストラクターや大学院生スタッフ（ラーニング・アシスタント）が常駐し、専門分野やアカデミック・スキルに関することなど、学部生が抱えるさまざまな学習についての悩みをサポートします。

ラーニング・アシスタント（ＬＡ）とは…

ラーニング・コモンズで学部生の授業外学習に関する助言、相談業務を担当する大学院生スタッフの呼称です。様々な研究科に在籍する院生が、互いに協同しながら、学部生からの学習相談に対応するため、単に教育経験を積むだけではなく、研究科の枠を越えた人脈形成を通して、専門領域以外の幅広い視野を養うことができます。



FD支援部会活動報告

2017年度は、FD支援部会の下に次の３つのワーキング・グループを設置しました。

①「教育効果点検ワーキング・グループ」では、教育改善、教育効果向上を目的に導入された既存のツールと手法（シラバス、授業講評、学生による授業評価アンケート等）について、学生の活用力に焦点をあてた運用の再点検の議論を行い、ワーキング・グループからの提案、要望等を踏まえ、周知方法や実施方法の改善、各種マニュアルを整備しました。次年度も、ワーキング・グループを通じて、今年度に提示された課題を検討する予定です。

②「内部質保証ワーキング・グループ」では、DP・CPの機能を意識した内部質保証システム（PDCAサイクル）の確立につながる教育評価（目標設定・評価指標）の開発方法の調査とプロトタイプの提示を目指した議論を行いました。2020年度の認証評価（評価対象年度は2019年度の取組み）では、授業評価アンケートを含めた各種点検の結果が、授業改善の根拠となる指標として有効に活用され、個々の授業の改善や組織の教育改善へつながっているか（教育の内部質保証システムとして有効に機能しているか）が評価ポイントとなる見込みです。2016年度に実施したDP・CP・APの再策定作業を踏まえて、ワーキング・グループでは、次回の認証評価への対応を視野にいれて、各学部・研究科・センターにおける毎年の自己点検・評価委員会に役立てられる根拠となるデータの提供やそのデータを活用した教育の内部質保証システム（PDCAサイクル）について、WG委員の先生から意見を聴取し提案され、FD支援部会で報告いただきました。

これらの提案については、中間報告として執行部と共有し、次年度も、ワーキング・グループ内で引き続き検討いただく予定です。

③「学習支援検討ワーキング・グループ」では、ラーニング・コモンズ（LC）をはじめとする学習環境の活用方法、展開すべき学習支援活動を検討し、特に京田辺キャンパスでの学習支援プログラム及び運営体制を中心に議論を行いました。2018年４月のラーネッド記念図書館LCの開設に向けて、アカデミックインストラクターとともに学習支援を担うラーニング・アシスタント（LA）を採用し、学生スタッフ（通称：紺ジャン）も募集を開始しております。受付の業務委託スタッフも、良心館LCのノウハウをもった委託先に決定しました。ラーネッド記念図書館LCの情報を盛り込んだラーネッド記念図書館のパンフレットについては、LCツアー案内のチラシとともに新入生向け配付物として同封する予定です。

本年度は、委員の先生方にはご多忙な中、ワーキング・グループでの議論をはじめ、部会運営にご協力いただきましたことに改めて御礼申し上げます。特に、取りまとめ役を担っていただいた余語真夫先生、深谷格先生、根岸祥子先生、小藤弘樹先生、飛龍志津子先生には、この場を借りて篤く御礼申し上げます。また、ご協力いただきました本学関係部署の皆さまにも心より感謝申し上げます。

（FD支援部会長　大島 佳代子）

2016年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」集計結果

学習支援・教育開発センターでは、2004 年度から「キャンパスライフに関するアンケート調査」を実施しています。2016 年度は、1年次生の調査で5217件（回収率：80.1%）、3年次生の調査で4461件（同 70.5%）の回答を得ることができました。今回のレポートでは、「（学生が経験した）授業形態・方法の変化」について検討します。

授業形態・方法の変化と学問領域別特徴

「キャンパスライフに関するアンケート調査」は、前回のvol.27 でも指摘したように、1年次調査と3年次調査で調査項目の多くが共通しています。このため、1年次調査とその２年後に実施された３年次調査の結果を比較することで、学年進行に伴う意識や行動の変化を可視化することが可能です。そこで、今回は、学生が大学入学後に経験した「授業の形態・方法」が学年の進行につれて、どのように変化しているのかを検討してみましょう。なお、分析で使用するデータは、vol.27 と同様、2014年度1年次調査と2016年度３年次調査です。

「キャンパスライフに関するアンケート調査」では、学生がどのような形態・方法の授業を受講してきたのかを把握するために、11の項目を設定し、各項目について「全くなかった」から「よくあった」までの４段階で尋ねています。図1は、「時々あった」と「よくあった」の合計【%】を学年別に集計したものです。

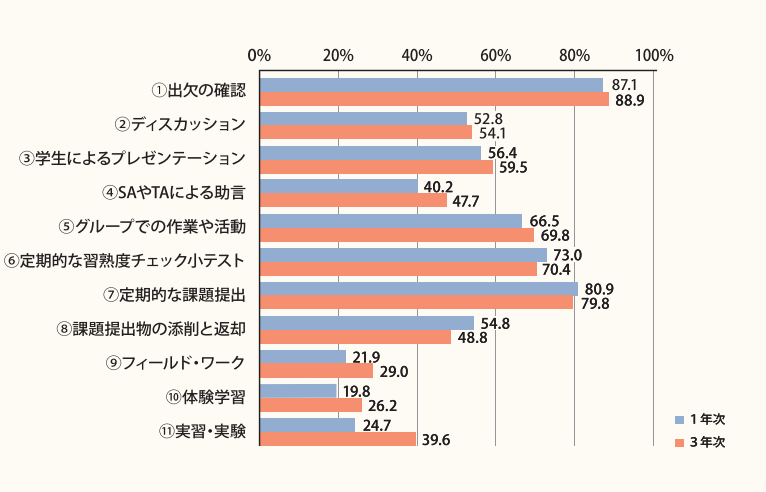


図１：学年別にみた「経験した授業の形態・方法（時々あった＋よくあった）」（2014年度入学生）
＊回答の選択肢は「全くなかった」、「あまりなかった」、「時々あった」、「よくあった」の４段階

図1によると、「①出欠の確認」と「⑦定期的な課題提出」の２項目は、1年次、3年次ともに多数の学生が経験し、学年間で経験頻度に大きな変動は認められません。次に、1年次と3年次を比較してみると、「⑥定期的な習熟度チェック小テスト」、「⑦定期的な課題提出」、「⑧課題提出物の添削と返却」の３項目をのぞいて、3年次になると経験頻度が増加していることがわかります。「④SAやTAによる助言」、「⑨フィールド・ワーク」、「⑩体験学習」の３項目については、1年次に比べて３年次の方が、経験頻度が５ポイント以上増加しています。なかでも、「⑪実習・実験」の経験頻度は、1年次の 24.7%から３年次になると 39.6%へと15ポイントも増加しています。

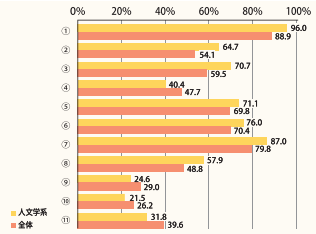


図２：人文学系学生の
「経験した授業の形態・方法」（３年次）

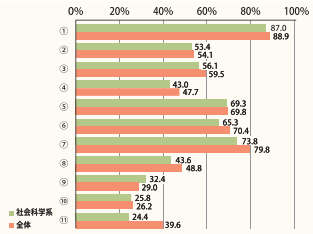


図３：社会科学系学生の
「経験した授業の形態・方法」（３年次）

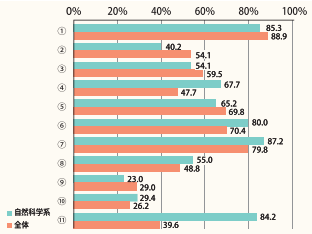


図４：自然科学系学生の
「経験した授業の形態・方法」（３年次）

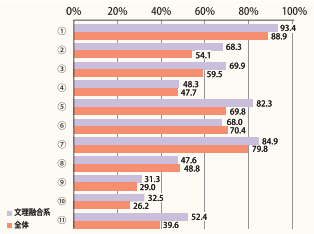


図５：文理融合系学生の
「経験した授業の形態・方法」（３年次）

続いて、図２から図５は、３年次調査における「経験した授業の形態・方法（時々あった＋よくあった）」の回答を学問領域別に整理した結果です。これらの図を見わたしてみると、学問領域によって、学生が「経験した授業の形態・方法」には相違が認められます。図２によると、人文学系では、「②ディスカッション」と「③学生によるプレゼンテーション」の経験頻度が大学全体と比べて10ポイント以上高いことが示されています。さらに、自然科学系では「②ディスカッション」の経験頻度が低い一方、「④SAやTAによる助言」、「⑪実習・実験」の経験頻度が大学全体と比較して顕著に高い点が際立っています（図４参照）。

このような結果から、専門科目の履修が中心となる３年次になると、学問分野の特性を反映し、授業の形態・方法が多様化していることが確認できました。

*人 文 学 系＝神学部+文学部+心理学部+グローバル・コミュニケーション学部+グローバル地域文化学部
社会科学系＝社会学部+法学部+経済学部+商学部+政策学部
自然科学系＝理工学部+生命医科学部
文理融合系＝文化情報学部+スポーツ健康科学部

以上、「2016年度キャンパスライフに関するアンケート調査」について集計結果の一部を紹介してきました。調査票および集計結果の詳細については、学習支援・教育開発センターのホームページにて公開しています。

【集計・分析：菅澤 貴之（学習支援・教育開発センター 准教授）】

学習支援・教育開発センターHP　http://clf.doshisha.ac.jp/investigation/investigation.html

開催報告

教育方法・教材開発成果報告会

学習支援・教育開発センターが設置している教育活動支援制度の一つである「教育方法・教材開発費制度」（B区分）を利用して2016年度に取組まれた教育方法・教材開発についての成果報告会を実施しました。当日は取組担当者の先生方にお越し頂き、取組テーマについてその教育的効果をご説明いただきました。

日 時　11月14日（火）　12：20～13：05

会 場　今出川キャンパス　寧静館５階会議室
京田辺キャンパス　理化学館１階会議室 ※テレビ会議システムで接続

テーマ　学生のメッセージに対応して適切なコメント候補を自動生成するシステムの構築
発表者　原田 隆史（免許資格課程センター 教授）

取組担当者は、教員免許取得のために義務付けられた「教職履修カルテ」上に学生が記述した内容を機械的に解析し、自動生成されたコメント候補の中から教員が選択するだけで学生へのコメントを付与できるシステムを構築されました。

学生が記述した内容を見ると、所属学部の授業との両立や教員採用試験に対する不安、家族からのプレッシャーなど同様の悩みを持つ学生も多く、学生に対して教員からのアドバイスを早期にフィードバックすることで彼らの悩みを解消できる効果が期待されます。

システム構築にあたっては、国立研究開発法人情報通信研究機構情報信頼性プロジェクトが開発した意見抽出ツールを利用し、京都連合教職大学院の大学院生に協力を得ながら、免許資格課程センターの教員が分析して精緻化を図りました。作成されたルールを用いてコメントを作成するシステムをWindowsアプリとして開発されました。これによって、教職課程の全科目に渡りきめ細やかな指導が可能となることも期待されます。

テーマ　英語科学技術論文執筆のためのビデオ教材の開発
発表者　Philip Tromovitch（ハリス理化学研究所 教授）／ 土屋 隆生（理工学部 教授）

取組担当者は、理工学部の１年次生を対象とした“Academic English for Science”（以下、AES）の受講者向けに技術者・研究者として自立するための英語力を身につけさせることを目的に、授業外での学習(予習・復習)をサポートするために講義の要点を盛り込んだショートビデオを補助教材として開発されました。

2017年度春学期から実際に導入し、アンケート形式で開発成果を検証したところ、約7割の受講生がビデオ教材を活用しており、主な活用実績としては、授業で理解できなかった部分を本ビデオ教材で補っていることが分かりました。AES受講者だけにこの補助教材を提供するのではなく、その他多くの学生に対しても、無料で英語での科学技術論文の書き方を発信し、学生が学びたいときにいつでも主体的に学習できる環境の整備を目指しています。

本取組は今後も遂行し、英語に対する意識改革を学生生活の早い段階で「実感」させ主体的な学習を促すなど、授業外でのサポートツールとして活用が期待されます。

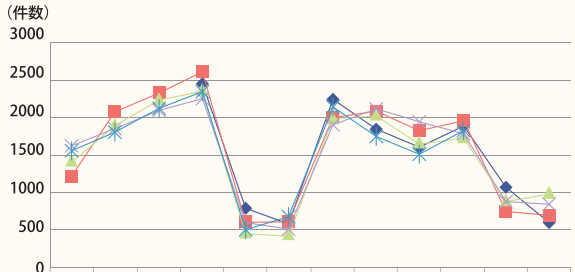
教育方法・教材開発支援費制度の詳細については、P.10をご参照ください。2018年度の採択テーマも紹介しています。

ラーニング・コモンズ運営状況

エリア別利用状況

良心館２階のインフォダイナー、３階のグループスタディルームの各月の利用状況のデータをまとめたのが下のグラフです。インフォダイナー、グループスタディルームともに、春学期と秋学期の授業期間中（試験期間含む）に多く利用されていることが分かります。

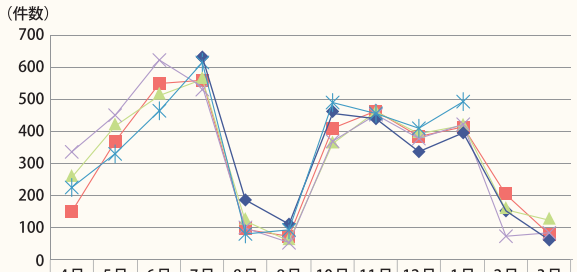
○2Ｆ　インフォダイナー予約件数（月合計）　2018年1月データまで集計



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2013年度				2452	771	805	2215	1818	1599	1877	1075	630
2014年度	1241	2042	2305	2589	585	610	1981	2051	1819	1917	767	699
2015年度	1440	1910	2240	2391	469	484	1994	2037	1726	1777	882	1010
2016 年度	1615	1846	2089	2249	592	525	1906	2101	1917	1843	881	849
2017 年度	1546	1804	2132	2346	500	687	2137	1747	1518	1824		

インフォダイナーは全16エリアが予約対象　予約開始は、2013年７月以降

○3Ｆ　グループスタディールーム予約件数（月合計）　2018年1月データまで集計



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2013年度				582	185	107	467	446	339	402	153	64
2014年度	152	373	552	565	96	76	415	466	391	419	206	77
2015年度	261	430	522	568	124	63	370	463	405	427	161	129
2016 年度	338	452	630	540	96	54	373	463	382	424	72	79
2017 年度	226	324	464	615	73	93	493	458	414	496		

グループスタディールームは５部屋が予約対象　予約開始は、2013年７月以降

協同学習ワークショップ開催報告

ライティング支援に求められる〈姿勢〉と〈技能〉

日 時　2017年11月22日（水）14：55 - 18：10

講師　佐渡島 紗織 教授（早稲田大学 国際学術院／ライティング・センター ディレクター）

会 場　良心館ラーニング・コモンズ３Ｆ ワークショップルーム 02

国内で最先端のライティング・センターを運営されている早稲田大学の佐渡島紗織先生をお招きし、学生の「書く力」をどのように伸ばすのか、先生の御専門であるライティングの指導と評価をもとに解説いただきました。当日は学部生、大学院生、教職員からの参加があり、小グループに分かれて実践的に学びながら、ライティング支援に求められる〈姿勢〉と〈技能〉を身に付ける機会となりました。

学習相談

良心館３階のアカデミックサポートエリアでは、アカデミック・インストラクターやLA（ラーニング・アシスタント）が学生の学習相談に乗っています。2017年度は2018年１月末時点で相談者は延べ1270名でした。相談件数は1574件となっています（図１）。昨年度と同じく「レポートの書き方」、「調査・研究の方法」、「論文の書き方」に関する質問が多くありました。また、新たに設けた「日本語チェック」も140件の相談が寄せられました。

LAが責任編集している広報誌『コモンズプレス』を年に２回（４月と10月）発行しています（図２）。学習相談経験に基づいたレポート執筆やプレゼンテーションに関するアドバイス、グローバルな視野を持つことの意味などラーニング・コモンズ利用者に向けた情報を提供しています。

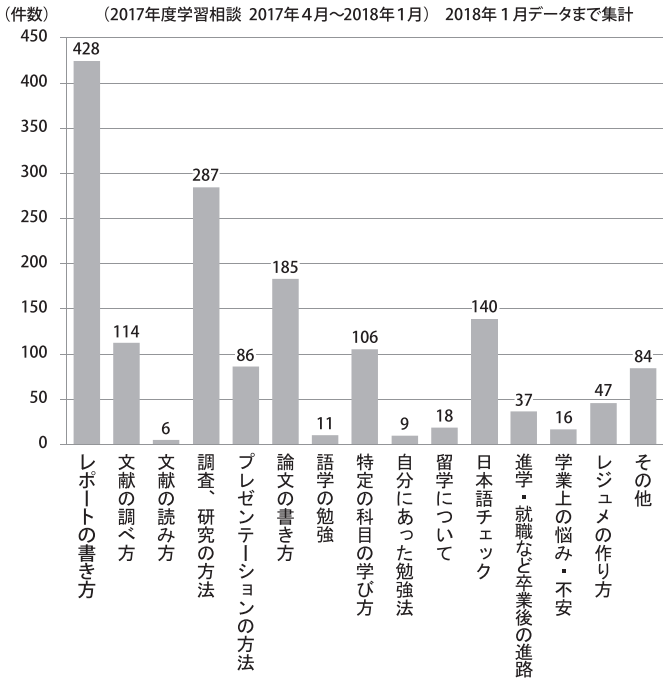


図１　学習相談の内訳 総件数1,574件

図２　コモンズプレス Vol.８（2018年４月刊行）

コモンズカフェ

今学期はコモンズカフェを３回（第26回、第27回、第28回）、２階グローバルビレッジにて開催しました。第28回はLAによる企画・運営としておこないました。

【第26回　あなたの知らないアメリカ映画の秘密】

日　時：2017年11月13日（月）14：55 -15：55
ゲスト：木谷 佳楠 助教（同志社大学 神学部）

【第27回　キャッチーに科学する】

日　時：2017年12月13日（水）14：55 -15：55
ゲスト：佐藤 翔　助教（同志社大学 免許資格課程センター）

【第28回　多元的なアジアの香り ―辺境のにぎわい―】

日　時：2018年２月６日（火）14：55 -15：55
ゲスト：王 柳蘭 准教授（同志社大学 グローバル地域文化学部）

良心館ラーニング・コモンズの情報は、以下のURLよりご参照ください。

良心館ラーニング・コモンズHP　http://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp/

各学部・研究科・センターFD活動報告

このコーナーでは、各学部・研究科・センターにおけるFD活動の報告を順次掲載していきます。

グローバル地域文化学部　植松 茂男

グローバル地域文化学部では中心的なFD活動として、1年次生と3年次生に対して、毎年アンケート調査を実施している（授業・留学・将来等について）。その目的は、本学部のカリキュラムについて、学生目線からの意見を収集し、教育内容・方法の改善と、教員研修の基礎資料とするためである。これらを参考にしつつ、学部完成を迎えた昨年2016年度より、本格的なカリキュラム改革案の策定に取りかかっており、2018年度から暫時新カリキュラムが実施される予定である。また、2017年度は11月24日（金）に劇作家平田オリザ氏を招いて、「コミュニケーション・ワークショップ」を実施した。この参加型ワークショップは、普段の生活では「察する」文化なのに、グローバルな社会では「声に出す」文化を身につけなければならない日本の教育現場の問題点の改善に資するためである。「グローバル」を学部名の一部に掲げる学部として、真の意味でグローバルスタンダードにかなう人間を育てられるように今後も取り組んでゆきたい。

グローバル・スタディーズ研究科　峯 陽一

グローバル・スタディーズ研究科はカリキュラム委員会を設置し、2017年度に大規模な改革を実施しました（実施は2018年度）。現行の3つのクラスターでは学生のニーズに細やかに対応できないという反省にもとづき、主要講義科目を「アメリカ研究」「アジア研究」「ジェンダー・セクシュアリティ研究」「移民・難民・多文化共生論」「グローバル市民社会の課題」「国際開発・国際協力論」「人文・社会科学方法論」という7つの科目群に再編し、学生自身の選択で体系的な学習ができるように工夫しました。さらに、科目を精選し、入門科目には教員全員で取り組むなど、カリキュラムは見かけも内容も一新されました。学生も教員もクラスターを横断し、研究科としての一体感をもった教育に取り組めるものと期待されます。2018年度以降は、研究科独自のアンケート調査等で学生の反応とニーズを確かめながら、細部のチューニングと改善を継続することが重要になるでしょう。

脳科学研究科　髙森 茂雄

大学院脳科学研究科では、FD委員会を組織し、学生からの授業評価アンケート、外部評価などの資料を活用し、授業科目のカリキュラムやQE、学位審査の方法などについて定期的に議論し、改善方法を検討している。2016年度は、完成年度を迎えたのを機に、その下に授業改善小委員会とQEおよび博士学位論文審査検討委員会を設け、それぞれについて集中的に検討を行った。まず、カリキュラムの抜本的な改革を行った（2017年度入学生から適用）。例えば、初学者の基礎知識を涵養するための科目（「細胞生物学」「分子生物学・遺伝学」）のオムニバス形式の廃止、必修科目「神経科学入門」の新設を行い、学生が神経科学をより俯瞰できるようにした。また、研究活動の活性化を期して、これまで2年次秋学期に行っていたQEだけでなく、3・4年次にも年度末の研究進捗報告を課すこととした。今後は、FD委員会においてこれらの新しい試みの効果を点検・調査し、来年度以降のFD活動に活かしていく予定である。

各学部・研究科・センターFD活動費について

学習支援・教育開発センターでは、各学部・研究科・センターレベルでの組織的なFDに関する取組に対し、FD活動費（支援費）の補助を行っています。以下の点に留意していただき、積極的な活用をお願いします。

FD活動費（FD支援費）の使用例

- 卒業時アンケート調査・新入生対象アンケート調査関連費用
- FD講演会・セミナー等開催関連費用
- 授業評価における専門的知識の提供に対する謝礼
- FD関連書籍購入費用　等

※組織の懇親会や親睦会は該当しません。

留意事項

- 教員個人レベルでの研究会、研修会参加費、部会委員としての催しへの参加経費等は「教育開発調査活動費」制度より支出すること。
- 組織代表者への支出の場合、その後のフィードバックの状況（内容）を示すこと。
- 補助の対象は非営利活動に限定する。また、文部科学省等の補助事業には使用できない。
- 補助を希望する場合は、事前に学習支援・教育開発センター事務室に申し出ること（申込書の提出が必要です）。
- 会合費*を使用する場合は、本学専任教職員を補助対象とする（学外講師の会合費は補助可）。
- FD講演会や会合の開催テーマや趣旨について、資料や記録等を提示すること。

* 会合費について
- 研修会開催等の会議費用（昼夜を問わない）は1人あたり単価1,200円（税別）までとする。ただし、夕食時における学外講師（＝本学教職員以外）との懇談費用等の場合は1人あたり単価3,000円（税別）までとする。
- 会合費にアルコールは含まない（会合費としての補助は不可）。

ご不明の点は、学習支援・教育開発センター事務室までお問合せください。

学外FD企画参加記

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメーリングリストを通じて、FDに関連したセミナーやシンポジウムのご案内をしています。実際に参加された先生にセミナーの様子や感想をお伺いしていますので、今後の参加の参考としてください。
※今後開催予定のFD関連企画はP.10でも紹介しています。

第7回新任教員研修セミナー

テーマ　国・公・私立大学の新任教員が大学の壁を越えて学び合い、交流する
開催日　2017年9月4日（月）～9月6日（水）
主　催　大学セミナーハウス

ハリス理化学研究所　彌田 智一　教授

還暦の新任教員として、8月「私大連ハママツFD」（私大連盟主催平成29年度FD推進ワークショップ（新任専任教員向け））に続いて、八王子郊外にある大学セミナーハウス主催の第7回新任教員研修セミナーに参加した。講義歴は長い。都立大学（現首都大学東京）で6年間、東京工業大学で15年間、学外の集中講義も多数ある。還暦と異動の機会に、大学教員として初心に戻り、我流の講義法を見直すつもりが、期待を遥かに超える学びと気づきをいただいた。多数の受講生を対象とする講義だけではない。最も大学らしい研究指導、特に、屹立した成果をめざす研究者と一喜一憂しながら行う研究活動においても、その動機付けや興味の展開は必須である。研究者の経験と個性が溢れる指導法を基盤に、学生が独創性と創造性を発揮できる科学的なガイドラインが必要である。一方、教員人材の多様な個性こそ大学教育の基盤である。指導法の正解を求めるあまり、ガイドラインが一人歩きして教員の個性が失われ、プログラムされすぎることがないように、日常的な意見交換の場が有効である。これからの大学教育を担う新任教員のFD研修だけに、数年後や十年後に再参加し、実践に基づいた意見交換と交流が重要と思う。研究指導は、助手着任以来の5機関33年間、200名を超える。この間、FD研修の機会は無かったけれども、学会などで同世代の教員と講義や研究指導の意見交換は貴重であった。ハリス理化学研究所の「人間と科学との関わりに目を向けた創造性と独創性を重視した研究活動」は、学部・研究科との連携や共同研究から始まる。指導法に正解は無く、多様な方法と現場対応の試行錯誤であることは間違いない。本FD研修のようなグループワークや模擬講義による客観的評価の機会と気づきを科学的ガイドラインとして活かしていきたい。

教育革新シンポジウム2017

テーマ　21世紀の大学像と学生の学び
開催日　2017年10月17日（火）
主　催　東京工業大学 教育革新センター

経済学部　笠井 高人　助教

教育を担う立場になり、これまで如何に実りある学修機会を提供できるかに苦心してきたが、実際のところあまり成功したといえないのが実情である。というのも、恥ずかしながら、教室内における授業設計に専念するあまり、学生の生活実態を進んで理解することにまで意識が回っていなかった。そこで、現実の学生像に適合した教育活動の在り方を考えるヒントを得たいと考え、本シンポジウムに参加した。

自身の主な担当である初年次教育では、クラスや担任がある高校と開放的な大学とのギャップを学生に認識させ、いかに前者から後者へスムーズに移行させるのかが課題である。友人作りに失敗したことで大学に対する関心が薄くなりつつある学生や、いわゆる「受験疲れ」した初年次生を学修に向き合わせるのは容易ではない。このような認識はシンポジウムに参加した多くの大学で共有できていた。

東京工業大学では、「東京工業大学　学びの7か条」を作成し、入学生に周知することで、学生が学びと向き合える環境の整備に努めている。その内容は、「いろいろな教員と積極的に接する」や「自立的に学習する」など取り立てて特別なことではないが、学生と教職員が同じ認識を共有していることのメッセージ性は高く、学びに対する意識面でのプラットフォームの整備に成功したといえる。主体的に学ぶ意欲がある限り、大学は全力でサポートできることを明示するため、学生が学修に対する動機を失いにくいと同時に、動機を失いかけた学生が再度積極的に学修に向き合うきっかけを提供できるであろう。

そのため、「どのような知識を得ることを期待するのか」を示すディプロマ・ポリシーだけでなく、「どのように学ぶことを期待するのか」および「どのような学修機会を保証できるのか」を示すことは、本学学生の学習支援にも資するに違いない。シラバスや初回の授業で学生に顕示することが身近な授業改善の第一歩となろう。

2018年度　教育方法・教材開発費 採択テーマ

本学における授業改善をさらに促進するために、専任教員を対象として、新たな教育方法および教材開発に必要な費用全般を対象とする補助を行う「教育方法・教材開発費制度」を設置しています。

2018年度は、この制度を利用してA区分２件の取組が行われます。

開発テーマ	所　　属	申　請　者
A区分（１件あたり税込50万円以下）		
同志社大学アラビア語講義および同志社大学内実施 「カイロ大学アラビア語能力検定試験」中級受験に対応した教科書の作成	神学部	四戸 潤弥
TOEIC対策の為の語彙力強化用教材開発	全学共通教養教育センター	内山 八郎

※これまでの採択テーマ及び成果報告書（本学教職員のみ閲覧可）は
学習支援・教育開発センターホームページ上に掲載していますので、以下のURLよりご参照ください。

教育方法・教材開発費制度のページ　http://clf.doshisha.ac.jp/support/development/materials.html

※教育方法・教材開発費制度を利用して開発された教材の一部は、本学オープンコースウェア上で公開しています。

同志社大学オープンコースウェア　http://clf.doshisha.ac.jp/opencourse/opencourse.html

ＦＤ関連企画のご案内

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメーリングリストを通じて、学内外で開催されるＦＤ関連企画を紹介しています。メーリングリストでの情報配信をご希望の場合は、学習支援・教育開発センター事務室までお知らせください（本学専任教職員を対象とします）。

今後、学外で開催される企画は以下の通りです。その他の企画についても随時お知らせしますので、積極的なご参加をお待ちしています。

研究会・研修会のご案内ページ　http://clf.doshisha.ac.jp/research/research.html

開催日程	企画名称	会　場
６月２日（土）・３日（日）	日本高等教育学会 第21回大会	桜美林大学 町田キャンパス
６月９日（土）・１０日（日）	大学教育学会 第40回大会	筑波大学 筑波キャンパス
６月１５日（金）・１６日（土）	New Education Expo 2018	大阪マーチャンダイズ・マート
８月９日（木）	私立大学情報教育協会 ICT利用による教育改善研究発表会	東京理科大学 森戸記念館
８月２７日（月）～２９日（水）	日本リメディアル教育学会 第14回全国大会	創価大学
９月５日（水）・６日（木）	初年次教育学会 第11回大会	酪農学園大学
９月６日（木）	私立大学情報教育協会 教育改革ICT戦略大会	アルカディア市ヶ谷

※上記一覧は予定ですので、開催時期や会場が変更されることがあります。
※参加にかかる費用は学習支援・教育開発センターが負担します。

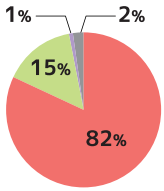
2017年度「大学入学準備講座」開催報告

2005年度より高校生向けに開講している「大学入学準備講座」（大学における必要な学力レベルを教えるための特設授業を提供することで、高校生に正しい学部選択の機会を与えることを目的としている講座）は、今年度も14講座を開講し、39校の高等学校より延べ1385名の高校生および同伴の保護者の方等（高校生1352名、保護者等33名）に参加いただきました。

初めて受ける大学の90分講義を体験し、少し疲れが見られたものの、グループディスカッションや、動画を採り入れた大学の講義は高校生にとっては新鮮で刺激的であったようです。終了後のアンケートでは、高校の授業との違いを実感しつつ、大学では専門的な分野の研究ができることへの期待や、今まで疑問に思っていた他学部との違いが明確となり、学部選択の参考になったようです。

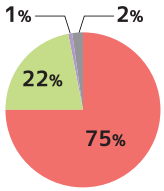
アンケート結果

授業のレベルはどうか？



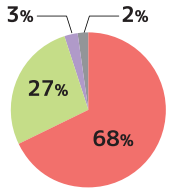
- ちょうど良かった
- 高すぎた
- 低すぎた
- 無回答

講師の話し方はどうか？



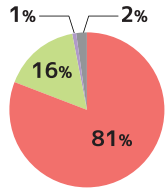
- わかりやすかった
- どちらとも言えない
- わかりにくかった
- 無回答

高校における勉強の刺激になったか？



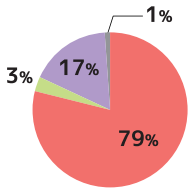
- 刺激になった
- どちらとも言えない
- 刺激にはならなかった
- 無回答

学部を選択する際の参考になったか？



- 参考になった
- どちらとも言えない
- 参考にならなかった
- 無回答

同志社大学の受験を考えているか？



- 受験する予定である
- 受験する予定はない
- まだ決めていない
- 無回答

受講者の声

高校生

- 高校の授業は受身である事が多く、自身が参加しているといった自覚を持てないのですが、大学の講義は参加型で楽しむことが出来ました。自由な感じの雰囲気だったので、学ぶ姿勢さえあればたくさんのことを吸収できるだろうなと感じました。
- 大学でやることはもっと難しくてついていけないレベルだと思っていたけど、基礎から丁寧に話を進めてくれるし、図やイラストもとてもわかりやすかった。
- 自分が学びたい学問を学ぶために大学に行くことが、いかに重要なことか、とても伝わってきました。
- 大学は人生で最後になる教育で将来にも関わっていくことなので、慎重に学部も選ばないといけないことが分かりました。
- まだ高1の自分にはわからないところも多く難しい講義だったが、これらをわかった状態で講義を受けると、きっと楽しいので、また受けてみたいと思った。
- 学校ではただただテストの点を取るためにやっているのですが、大学では深い所まで知れるので、面白いなと思った。

保護者

- 大学の講義は一方的なものだと思っていましたが、生徒がとても活動的で魅力的に感じました。
- 自分の頭で考えて行動することが出来る人材を育ててください。
- 何十年振りに大学の講義を受けましたが楽しかったです。学生時代このように楽しかったかな？と感じます。しかし、興味を持って受講させることが大切だと思うので、引き続きこのような感じで講義して頂きたいです。

講義風景

講義を集約した講義録を発行しています。

136本の動画コンテンツが視聴できます。

＊動画閲覧に必要なID・パスワードは
学習支援・教育開発センターにお問合せください

大学入学準備講座のページ　http://clf.doshisha.ac.jp/preparation_course/course.html

センター事務室からのお知らせ

新任教員研修会／ＴＡ研修会開催のお知らせ

学習支援・教育開発センターでは、2018年度の新任教員向けおよびＴＡ向けの研修会を開催します。
対象者以外でも、本学教職員であれば参加可能ですので、ご希望の場合は学習支援・教育開発センター事務室までお問合せください。
また、研修会の内容は、後日ホームページでも公開予定ですので、あわせてご覧ください。

新任教員研修会

日程 ４月２日(月)13：00 ～ 16：25

会場 今出川キャンパス：寧静館５階会議室

内容
- ガヴァナンス、意思決定の仕組み
- 教育活動
- 研究活動
- グローバル化の取組
- 入学試験業務
- 学生支援体制
- 教育 / 研究倫理

ＴＡ研修会

日程 ４月４日(水)12：00 ～ 12：45
４月５日(木)12：00 ～ 12：45
４月６日(金)18：30 ～ 19：15

会場 今出川キャンパス：良心館ラーニング・コモンズ
京田辺キャンパス：恵道館201番教室
ラーネッド記念図書館ラーニング・コモンズ

内容
- ＴＡ制度、ＴＡの心得
- ＴＡの事務手続き

※受講者全員に「受講証明書」を発行いたします。
ＴＡの研修会参加確認の目安にして頂く等、ご自由にご活用ください。

※各研修会の詳細については、本センターのホームページをご参照ください。

お知らせのページ　http://clf.doshisha.ac.jp/information/information.html

BOOKS　新着図書情報

学習支援・教育開発センターでは、大学改革やＦＤ関係の図書資料を収集し、専任教職員の方に事務室で閲覧していただけるようにしています。貸出も可能ですので、センターに直接お越しになるか、ホームページ掲載の所蔵図書資料一覧をご覧いただき、ご希望の資料があればメールまたはお電話でご連絡ください。学内便でお届けします。

大学評価の体系化
生和 秀敏（著）
東信堂
2016. 10
ISBN：978-4-7989-1390-2

アクティブラーニング型授業としての反転授業 実践編
森 朋子　溝上 慎一（編）
ナカニシヤ出版
2017. 5
ISBN：978-4-7795-1089-2

高等教育研究のニューフロンティア
日本高等教育学会（編）
玉川大学出版部
2017. 7
ISBN：978-4-472-18047-7

＊センターで所蔵した方が良いと思われる書籍等がありましたらご推薦ください。
下記の「図書資料のご案内ページ」よりご覧いただき、ご活用ください。

図書資料のご案内ページ　http://clf.doshisha.ac.jp/books/list.html

Column 大学教育の今「職業人の基礎的・汎用的能力養成とラーニング・コモンズ」

2016年５月30日に公表された中教審答申において、「自己の職業分野における高度な専門技能等を備えると同時に、変化への対応等に必要な基礎・教養や、理論にも裏付けられた実践力等を兼ね備えた質の高い専門職業人の層を確保」するために、大学にはそれらの人材養成を推進することが期待されています。答申では、職業人として共通に求められる基礎的・汎用的能力として、コミュニケーション能力・ディベート力、課題対応能力、チームワークやリーダーシップを発揮して責任を担う能力、多様性への理解、職業観などが例示されています。本学では、これまでも学部・研究科のみならず、全学共通教養教育センターやPBL推進支援センターなどの協力も得て、これらの能力の養成に努めてきています。

しかし従来は、とくに専門教育が始まるとゼミや研究室単位のコミュニティの中で学習する傾向がみられました。本号の冒頭で紹介したように、2018年４月よりラーネッド記念図書館ラーニング・コモンズでのサービス提供が始まります。学生のみなさんには日頃の学習・研究成果をプレゼンテーションコートで発表することはもちろん、多様な価値観に出会い、考え方や価値観の異なる人との議論を通して、職業人として求められる基礎的・汎用的能力を培ってほしいと思います。両校地に揃ったラーニング・コモンズは、これまで通り、初年次教育や授業外学習をサポートするだけでなく、専門を超えた学習コミュニティ形成の場としても積極的に利用されることを期待しています。

学習支援・教育開発センター所長　大島 佳代子

CLF REPORT
Center for Learning support and Faculty development report

「シーエルエフ レポート Vol.28」
同志社大学 学習支援・教育開発センター レポート

発行日：2018 年 3 月 30 日
発行者：同志社大学 学習支援・教育開発センター
京都市上京区今出川通烏丸東入　明徳館 1F
Tel. 075-251-3277　Fax. 075-251-3025
E-mail. ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp
http://clf.doshisha.ac.jp/